

(註 説) ○本邦産新種の天社蛾科に就て (松村)

●本邦産新種の天社蛾科に就て

理學博士 松 村 松 年

數年前ザイツ氏著舊北洲大蛾類圖説の發刊せられし以來此方面に研究を進むるもの少なからず、余も亦數年來其材料を蒐集せる所今回天社蛾科に關する研究を終へたるを以て今茲に新種を發表すべし、本邦に産する天社蛾の總數は百三十種にして余の所有せるもの百五種あり、他の二十六種は朝鮮及び臺灣に産するもの多く従つて余の未だ研究を了せざるものなり、今回の研究によりて見るに本邦に十三の新種と、未だ本邦産として知られざる五種とあり、即ち左の如し

- 一' *Dudusa sphingiformis* MOOR. フサチシヤチホコ 日光
- 二' *Phosia dictaenoides* ESP. シロシヤチホコ 札幌、信州
- 三' *Cnethodonta viridifusca* WK. ミドリシヤチホコ 臺灣
- 四' *Pygopteryx saeva* STOR. ヨサシヤチホコ 札幌、岐阜
- 五' *Ramesa tosta* W&A. カバイロシヤチホコ 伊豆
- 六' *Drymonia daisensensis* n. sp. ダイセンシヤチホコ 伯耆
- 七' *Hapodonta lignea* n. sp. スサガバイロシヤチホコ 札幌、日光
- 八' *Shachia* (n. g.) *subrosa* n. sp. ウスアカシヤチホコ 札幌
- 九' *Epirotodonta* (n. g.) *fumosa* n. sp. ウスグロシヤチホコ 信州
- 一〇' *Hyperaeschra sūzukiana* n. sp. スズキネグロシヤチホコ 京都
- 一一' " *serrata* n. sp. ハガタネグロシヤチホコ 京都
- 一二' " *angustipennis* ホソバネグロシヤチホコ 京都
- 一三' " *nigricollaris* n. sp. クビロネグロシヤチホコ 札幌

一四' *Lophopteryx kuwajamae* n. sp. クハヤマエグリシヤチホコ 函館、札幌
 一五' " *jezoensis* n. sp. エゾエグリシヤチホコ 札幌
 一六' *Platylus angustipennis* n. sp. ホソバツマキシヤチホコ 東京
 一七' " *takasagoensis* n. sp. タカサゴツマキシヤチホコ 播州
 一八' " *jezoensis* n. sp. エゾツマキシヤチホコ 札幌、京都

此内(一)は從來支那及び印度地方に知られたれども近來日光にも産するを知るに至れり。(二)は信州八ヶ岳にて初めて鈴木元治郎氏の採集せるものなるが、昨年余は札幌にても捕獲せり。(三)は臺灣埔里社にて高椋悌吉氏の採集せるものなるが從來は印度より知られたり。(四)は一昨年岐阜にて採集せられ目下高椋悌吉氏の所有せらるる珍種なるが余も亦昨年札幌にて一頭を捕獲せり。(五)は數年前湯河原にて素木得一氏の採集せるものなるが稀なるが如し、原産地は印度なり。

一、ダイセンシヤチホコ

Drymonia daisensensis n. sp.

此はノヒラシヤチホコ *D. basalis* WILKM. ET S. に近似のものなり、前翅は灰白色、紋條は暗色、翅底線は判然し、前横線は稍々點線より成り、第一室縫褶線の處にて少しく外方に曲る其外方に太き暗色の一帶ありて前縁の處にある波狀線は犬牙状をなし、第一室の處にて黒線と

なり、前縁の外側には稍々三角形の暗色紋あり、外縁線は暗色、縁毛は灰色と暗色との斑をなす。後翅は暗灰色、中央に淡色の一帯あり。裏面は暗灰色、前翅の中央に淡色の一帯ありて少しく外方に曲り、外縁は帯と同色なり。後翅は淡色、中央に判然せざる二帯あり。觸角は黄褐、頭は暗褐、胸背は灰色、肩板は灰白、其末端は暗褐、腹部は暗灰色開張(♂)一寸三分、此は伯耆の大山にて六月下旬野平安藝雄氏の採集せるものなるが稀なるが如し、ノヒラシヤチホコと異なる重點は前翅底の四分の一は灰白にして中央の太き一帯は白色なるにあり。

二、スチカバイロシヤチホコ

Hypodontu lignea n. sp.

此はカバイロシヤチホコに酷似すれども其異なる所は左の如し。

一、(♂)前翅は灰色、翅底及び後縁は綠黄を帯ぶ、第四室の中央に黒色の細線を縦走し、淡色の亞外縁線は第一乃至第四脈の處にて深く内方に屈折し、外縁線は黒色にして波状を呈し、外縁は細き黒線にて境せられ各脈の處にて何れも遮断せらる、第一及び第二室の末端に近き褐色紋は判然せず。

二、後翅の後縁にある淡色帯及び暗色帯を缺き、黒色の外縁線は顯著なり。

三、裏面、前翅前縁の三分の一の處に暗色の斜紋ありて

第七脈の基部に達す、後翅の暗色帯は餘り彎曲せず。四、腹部の兩側に毛塊を列ぬ、開張(♀)一寸九分内外、此は七月下旬札幌地方に稀ならず、尙日光にも産す。

三、ウスアカシヤチホコ

Shachia (n. g.) *subrosea* n. sp.

前翅は紫灰色、翅底の三分の一は白色、五條の横線を斜走し、第一、第三及び第四線は黒色、第二及び第五線は紫褐色、第一線は太く、第二及び第三線は後縁に達せず、第四線は後縁の中央に終る、中室紋は白色、中室の外方に大なる黒紋ありて其外側は黒色の横線にて境せられ、之れは後縁角の前方に達し其内側は白線にて縁取らる、亞外縁線は灰白にして波状を呈し、外縁線は紫灰色にして其内側に灰白の細線あり、縁毛は灰白。後翅は暗灰色少しく紫色を混ず、中帯及び横脈は暗色、其外縁は少しく淡色外縁線は暗色、縁毛は前翅と同様なり。裏面、前翅は暗灰色、中室の部分は淡色、前縁の末端に近く黄白紋を列ぬ。後翅は灰白少しく紫色を帯び、中帯及び前縁の基部に近き一紋は暗色、外縁線は暗色。觸角は暗色にして甚だしく羽状を呈し、末端の五分の一は鋸齒状をなす、頭及び胸背は灰白、前胸背の後縁及び中胸背の前縁は暗色、腹部は後翅と同色、尾端は灰白にして同色の長毛を裝ふ。開張(♂)一寸一分—一寸二分。此は札幌にて七月下旬乃至八月上旬捕獲し得べしと雖稀なり。

(附言) ○本邦産新種の天社蠶科に就て (松村)

(附言)——此は拙著續千蟲圖解第一卷第十一圖(25)八十四頁にニツクラウシヤチホコとせるものなるが全く異なりたる種類なれば茲に訂正す。

四、ウスグロシヤチホコ

Ephraeta rotata (n. g.) *fumosa* n. sp.

雄、前翅は暗褐、紋條は黒色、翅底の中脈下及び後縁に一縦條を具へ、其中間は灰黄、前横線は中室の處にて外方に、第一脈の處にて内方に屈折す、横脈紋は判然す、後横線は小さき波狀を呈し、各脈の處にて犬牙狀に突出し、其末端は灰白點にて冠せらる、之れより外縁に達する三分の一の部分は淡色にして第二、第三及び第六室の部分に暗色紋を裝ふ、外縁に灰黄の一點を列ぬ、縁毛は暗褐なり。後翅は暗灰色。帯は判然せず、裏面は暗色、兩翅共中央に濃色の一帯ありて其外側は淡色線にて縁取られ、特に前翅の前縁にて判然す、外縁に灰黄紋を列ぬること表面に異ならず。體は暗色、前胸背及び前胸背の前縁及び肩板の基部は灰黄白。開張(♂)一寸五分内外。雌は未だ捕獲せられず、信州八ヶ岳に稀ならず。

五、クゼワボグロシヤチホコ

Hyperoeschia nigricollaris n. sp.

此はクヌギシヤチホコに酷似すれども其異なる所は左の如し。

一、前翅は明瞭に長く後横線は前縁より第四脈迄少しく外方に斜走し、第四脈より第二脈に向つて急に斜走

し之れより弓狀に内方に曲りて第二脈に達し稍々後縁の中央に達す、第一室に稍々楕圓形環ありて其外側に一黒點を裝ふ、後横線より外縁までは暗灰色にして、脈は白色と暗色との斑をなす、外縁線は細くして暗色なり。

二、後翅は暗灰色にして中央に暗色帯を具へ、淡色帯を缺く。

三、裏面、兩翅外半の淡色部の面積は一層廣し、縁毛は灰白と暗色との斑をなさず。

四、前胸背は前翅の基部と同色。他は後翅と同色、肩板の内側に純白の鱗毛を混す。開張(♂)一寸四分、此は七月下旬札幌にて野平安藝雄氏の捕獲せるものなり、稀なるが如し。

六、スズキノボグロシヤチホコ

Hyperoeschia susekiyana n. sp.

此はクヌギシヤチホコに酷似すれども其異なる所は左の如し。

一、雄、前翅は狭く、後横線は前縁より第四脈まで少しく内方に斜走し、第四脈の處にて少しく外方に屈折し、其後縁に終る處は内方の二短線と相平行す。

亞外縁線は第三及び第四室の處にて犬牙狀に突出し、第三脈より後縁角までは端直なり。横脈上の黒紋及び其内側の黒點を缺く。

二、後翅の淡色帯は判然せず。

三、裏面は全體暗灰色、後翅は少しく淡色、中央の淡色帯は太く、其内側に暗色帯を缺く、縁毛は斑をなす。

四、頭、胸及び腹部は後翅と同色、開張(♂)一寸五分。

此は京都にて鈴木元治郎氏の捕獲せるものなるが稀なるが如し。

七、ハガタネグロシヤチホコ

Hyperbaeschna serrata n. sp.

此種も亦クヌギシヤチホコに酷似すれども其異なる所は左の如し。

一、雄前翅は暗灰色、外半は少しく淡色、後横線は細くして齒状に突出し、前縁より第四脈迄端直にして後縁に向つて稍々直角をなす、亞外縁線は淡色にして外縁に平行し、外縁線は黒色にして少しく波状をなす、横脈紋は灰黄なり。

二、後翅は前翅の基部と同色。

三、裏面は前種に酷似して全體暗灰色、淡色帯の内側に暗色帯あれども判然せず、外縁線は少しく濃色。

四、胸背は灰白腹部は後翅と同色、開張(♂)一寸四分。

此は京都にて鈴木元治郎氏の採集せるものなり、稀なるが如し。

八、ホソバネグロシヤチホコ

Hyperbaeschna crassitipennis n. sp.

此種も亦クヌギシヤチホコに酷似す、其異なる點は左の如し。

一、前翅は細く、第一室にある楕圓紋は短かく、更に内部に暗褐の棍棒状をなせる二縦條ありて下方のものは短かし、横脈紋を缺く、後横線は前縁より第四脈迄端直之れより後縁の中央に向て斜走し、第二脈の處にて少しく内方に曲る、其外方に暗色の太き三帶ありて内方の二帶は後縁にて判然し、外縁に近き一帯は後縁角に達す、外縁線は暗色にして波状をなす。

二、後翅は前翅と稍々同色、淡色帯は餘り判然せず。

三、裏面は表面より少しく淡色、淡色帯及び其内側の濃色帯は餘り判然せず。

四、頭及び前胸の環紋は暗褐、胸部は灰白、腹部は後翅と同色、開張(♂)一寸二分。

此は京都高尾にて六月中旬鈴木元治郎氏の採集せるものなるが稀なるが如し。

九、クハヤマエグリシヤチホコ

Lophopteryx kuwajamae n. sp.

前翅は黄褐、紋條は暗褐、第一室縫褶線下の一圓は暗褐、後縁にて翅底より翅の中程迄淡色、前横線は高き波状をなし、中室の處にて外方に、第一脈の處にて内方に突

(論 説) ○本邦産新種の天社蠟科に就て (松村)

出す、後横線は一双よりなれども外方のものは判然せず、第六及び第七脈の處にて高く、第四脈の處にて少しく外方に突出し、後縁に至るに従ひ其太さを増す、亞外縁線は太く、第六脈より第二脈に亘りて稍々判然す、縁毛は翅と同色、其基線は少しく淡色なり、後縁の突起は暗色、後翅は灰黄、肛角は暗色、其直上に二本の短き灰黄帯ありて暗褐線にて縁取られ、上方にあるものは下方にあるものゝ半長に過ぎず。裏面は灰黄、前翅の前縁角に近き前縁に判然せざる灰白の點列を裝ふ。頭胸は褐色、中胸背は灰白、後縁の兩側に褐色の一紋あり、腹部は灰黄、開張(♂)(♀)一寸二分—一寸三分、余は函館にて故桑山茂氏の採集に係る二頭の雄と、札幌にて三橋信治氏の採集せる一頭の雌とを所有す、稀なるが如し。

一〇、エゾエグリシヤチホコ

Lophopteryx jessoensis n. sp.

前翅は暗黄褐、中脈下の一圓、殊に後縁の半部は暗色、翅底線はM字形を呈すれども、前横線は黒色にして細く、中脈の處にて内方に屈折し、中室の處にて外方に深く彎曲す、後横線は黒色にして一双より成り、内側のものは太く、少しく波状を呈し、外側のものは細くして餘り判然せず、雌にては内方に一突紋を出し、第七脈の處にて深く外方に屈折す。外縁は後縁同様に暗色、後横線との間に淡色の太き一線を斜走し、兩端は少しく細まる、縁毛は黄褐、基線は暗褐なり。後翅は灰色。判然せざる暗

色の二帯を具へ、肛角の斑紋はエグリシヤチホコに異ならず。

縁毛は黄褐にして肛角の部分に二紋を缺く。裏面前翅の中央は暗色、之れを貫きて判然せざる濃色の一線を斜走し、後翅の同様帯と相連絡す。雄にては下唇鬚は頭よりも長く突出し、第三節は稍々卵形を呈す、頭胸は褐色、後胸背は淡黄褐、開張(♂)一寸四分、(♀)一寸八分、此は八月上旬札幌にて捕獲せるものなるが稀なるが如し。

一一、ホソツマキシヤチホコ

Phalera angustipennis n. sp.

前翅は灰色、銀色を帯ぶ、前縁角は淡黄白にして其内側は圓く其外側の下方に二凹陥あり、翅底線前横線及び後横線は稍々判然すれども中央にある五條の横線は判然せず、亞外縁線は白色にして初めの第一乃至第三室に於てのみ判然す、各室末端の中央に黒色の一縦線を裝ふ、外縁線は黒色にして波状をなす、縁毛は赤褐、後縁角に近く後縁に大なる暗褐紋あり、後翅は暗色、中央に淡色の二帯を裝ふ、裏面は黄白、前翅の前縁、翅底より約後縁角に至る一圓、第一乃至第三脈上の縦線並に外縁は暗色、前縁の末端に近く三黄紋あり、縁毛は赤褐、後翅の中央に暗色の二帯ありて少しく外方に弓曲す、尙其外方に太き一帯あれども餘り判然せず、縁毛は淡黄白。頭は黄色複眼間は暗褐にして其中央は少しく黄色を帯ぶ、前胸背は後縁

を除き黄色を帯ぶ、中胸背は暗褐色にして濃色の二横紋を具へ、肩板及び後胸背は白色、腹部は黄褐色、第一節の背部に暗褐色の毛塊あり、尾節は黒色、其基部及び末端は黄白、胸面は暗色、中央部及び腹面は黄白、開張(♂)二寸内外、此は東京にて平山修次郎氏の採集せるものなるが稀なるが如し。

(附言)——此種類は長野菊治郎氏のムクツマイキシヤチホコ *Phalera fuscescens* Nag. (名和昆蟲研究所報告第一號二十二頁)なるが如し、然れども少しく異なる處あるを以て前出の和名を與へ置きたり。

一二、タカサゴツマキシヤチホコ

Phalera takasagoensis n. sp.

前種に酷似すれども其異なる點は左の如し。

一、前翅は廣く、外縁は明瞭に短かし、前縁角の黄白紋は細長にして、内側は圓しと雖其部分の幅は翅端の幅と稍々同様なり、其後縁の刻りは一層淺し、前横線は黒色にして太く、其内方に黒鱗を缺き(中脈下)此線と後横線との中間には暗色の四條あれども餘り判然せず、横脈上の黄白紋を缺く、各室の末端に黒縦線を缺き、白色の亞外縁線は判然せず。

二、後翅は黄白、外縁の三分の一及び中横帯は暗色、前縁は廣く黄白なり。

三、裏面、前翅は暗灰色、濃色帯を缺き、翅端及び後縁は廣く黄白、亞外縁線は黄白、縁毛は赤褐色、基線は黄色、後翅は黄白、中央に端直の一暗色帯あり、外

(論 說) ○本邦産新種の天社蛾科に就て (松村)

縁線は褐色、縁毛は黄白、脈端に黄褐色を混す。
四、下唇鬚は灰白、末端は雄に限り少しく暗色鱗を裝ふ、前胸背は全部黄色、中胸背に褐色あれども少なし、腹部の末端は黄白、兩側の基部に暗色毛を有するものあり。開張(♂)一寸五分—一寸七分、(♀)一寸九分、此は播州高砂地方に普通なるものにして幼蟲は櫟の害蟲なり。

(附言)——拙著續千蟲圖解第一卷五十二頁、第九圖(4)に記載せるものは則ち此種類なり、爰に訂正す。

一三、エゾツマキシヤチホコ

Phalera jezoensis n. sp.

ツマキシヤチホコに酷似すれども其異なる點は左の如し。

一、雄、前翅は灰白にして銀色を帯び、翅端の大紋は黄白にして其内側は稍々端直、黄褐色にて境せられ、末端は中央と同幅にして圓し、翅の中部に三波狀帯ありて何れも第四脈の處にて少しく外方に曲る、翅底に黒鱗を散在せず、外縁にく字形の紋の列を缺き、後縁の基部には暗色紋なし。

二、後翅は灰白、暗色の二帯ありて翅底に近く灰色の長毛多く、縁毛は黄白、各脈の終點に黄褐色を裝ふ。

三、裏面、前翅の外縁にく字形の暗色紋列を缺き、後翅の内縁は地色と同色、外縁線を缺き縁毛は翅表のものに異ならず。

(續) 圖 ○ 肺「ゲストマ」被胞囊幼の構造 (小林)

四、下唇鬚は黒褐、下面に少しく黄毛あれども何れも其末端は暗色、頭、前胸背及び腹部は一層淡色、腹面は後翅の裏面と同色、尾節は長く、稍々圓錐形を呈し、其基部の兩側は暗色なり、開張(♂)一寸九分内外。

● 肺「ゲストマ」被胞囊幼の構造 (承前)

理學博士 小林 晴 治 郎

六、吸 盤(第三十五圖)

口腹二個の吸盤は幼蟲期にも可なりよく分化せるものの一にして口吸盤よりも腹吸盤の方稍大形なるは從來の諸學者多く是を認めたり。

口吸盤は體前端腹面にあり、稍横に延長せる輪廓を有する事多く、長さ(計測は體の大きさと同様なる方法にて行へり)○・○五六—○・○六四耗、幅○・○七—○・○九耗なり。腹吸盤の位置は各個體の體の伸縮の度によりて多少異れども、普通體の中部より稍前方又は體の前三分の一の位置に於て體の正中線上にあり。體前端より腹吸盤の後縁迄の距離は平均○・三—○・三五耗なり、其大きさは常に口吸盤より大にして又横に延びたる事多く長さ○・○八一—○・二耗、幅○・一—○・二耗なり。即ち口吸盤と腹吸盤との直徑の割合は大體に於て四と五との比なり。

此は昨年六月下旬札幌にて捕獲せるものなるが甚だ稀なるが如し、其後該種は京都高尾山に於て鈴木元治郎氏により採集せられたり。(了)

大なる例にては口吸盤にて長さ○・○六六耗幅○・一耗に至るあり、腹吸盤にて長さ○・一一耗幅○・一二耗を有す。又小なる例にては口吸盤が長さ○・○四八耗幅○・○五耗にして腹吸盤は長さ○・○六四耗幅○・○七耗を有す(此等の例は特別なる奇形を擧げたるにあらず)。吸盤の大小は略體全體の大小に比例す。

吸盤内部の構造は可なりよく分化せり。即ち腹吸盤に於て其筋纖維を内方より擧ぐれば内部輪狀筋(よく發育す)、放射筋、若干の稍斜走せる縱走筋、外部輪狀筋(内部のものよりも弱し)及外部縱走筋の各筋纖維束皆存在せり。口吸盤にては全體の筋肉腹吸盤よりも發育稍劣り且つ各筋纖維稍粗に散在せり。又外部輪狀筋は口吸盤には之を認めず。兩吸盤の細胞には二種を認む。一は圓形にして大きく胞狀の核を有し、一は圓さか又は一方に延長し小形にして濃染する核を有す。兩者の幅は各○・○